



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日		イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足		オペ期日	オペスタート	
11/25 (月)	▲ 400	+ 18,200	+ 17,800	国庫短期証券発行・償還 (3M)	国債補完供給 + 4,800	国債買入 + 11,000	日：景気先行CI指数 (9月)
11/26 (火)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000	流動性供給			米：FOMC議事要旨 (11月6日・7日開催分) 消費者信頼感指数 (11月)
11/27 (水)	▲ 1,000	▲ 4,200	▲ 5,200		共担オペ ▲ 8,000		米：GDP (3Q、改定値)
11/28 (木)	トン	▲ 11,000	▲ 11,000	国債発行 (40年)			日：臨時国会召集 米：休場 欧：ユーロ圏消費者信頼感指数 (11月)
11/29 (金)	▲ 300	+ 8,000	+ 7,700				日：東京CPI (11月) 失業率 (10月) 有効求人倍率 (10月) 欧：ユーロ圏CPI (11月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆9,000億円減少の544兆3,300億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行、源泉所得税揚げ等の要因により増減し、22日は543兆2,100億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後モビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.226%~0.390%のレンジ、1M物0.290%~0.340%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、28日に臨時国会の召集、29日に東京CPI (11月) の公表、

海外では26日にFOMC議事要旨 (11月6日・7日開催分)、27日に米GDP (3Q、改定値) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.220 ~ 0.228
1M	0.28 ~ 0.45
2M	0.35 ~ 0.50
3M	0.35 ~ 0.50
6M	0.50 ~ 0.65

<レポ>

足許GC取引は輪番オペがあった週初から20日まで+0.23%~+0.24%のレンジで出合い。21日は+0.22%近辺から出合い始めたが、引けには+0.24%まで上昇した。3mの短国発行と輪番オペが重なった週末も+0.23%~+0.24%の出合いが中心となった。

SC取引は2年460~466回債、5年149~174回債、10年350~376回債、20年180~190回債、30年65~84回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆3,900億円で、週間償還額の1兆600億円を上回った。発行残高は先週末時点の24兆2,500億円から、11月21日時点で24兆7,690億円に増加した。発行市場は、石油製品、鉄鋼、鉱業、小売業、卸売業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.40%台前半での出合いとなった。12月19日を超える期間の入札案件では、12月の日銀決定会合での政策修正への警戒感から、投資家が運用金利を見定める局面が続いており、発行レートが上昇している。

来週の償還額は、2兆5,000億円となっている。発行市場は、月末スタートの大量発行により、活況が見込まれる。発行レートは、12月の日銀決定会合を超えない期間については0.25%近辺での出合いが予想される。また、1M超~3M物の案件については、先週に引き続きレート水準を探る展開となるであろう。

<TDB>

19日の1Y (1270回債) の入札は、最高落札利回り0.4449% (前回債0.2987%)、平均落札利回り0.4379% (前回債0.2886%) となった。

22日の3M (1271回債) の入札は、最高落札利回り0.1341% (前回債0.1419%)、平均落札利回り0.1210% (前回債0.1276%) となった。

来週の入札は、19日に1Y、22日に3Mが予定されている。